

# 水を活かしたまちづくり活動

特定非営利活動法人 新町川を守る会 理事長 中村 英雄

## はじめに

徳島市には『四国三郎』吉野川をはじめ、まちの中心部には新町川、助任川等の河川が網目状に流れ、さながら水濠都市の様相を呈しています。また、まちの中心部に画期的な『新町川水際公園』が完成して以来、市内中心部の水辺は県と市の各種のハ・ド事業による整備と県のラブリバ - 推進事業、市の水と緑の基金等のソフト事業により、全国でも類をみない、水際景観が形成されつつあります。

このような状況のなか、私達はまちの特性である数多くの河川に着目し、水を活かしたまちづくりに取組んでまいりました。活動の原点である河川清掃活動を基本に、水と川を活かす水遊都市をコンセプトに各種の河川環境啓発イベント等の活動を積極的かつ継続的に進めており、今後とも住民・行政・企業の三位一体となった大きな運動により一層発展させていきたいと考えております。

また、川の魅力を一層高め、後世に伝えていくとともに、人と川、地域と川との新しい共生関係を築きあげて、『人と人』、『人と自然』の交流を深めていく必要があります。

このため、河川に関する環境意識の高揚と河川の浄化・保全等に対する運動を喚起するため、河川を軸とした、源流の森から海区に至るまでの様々な地域との連携による広域的な環境啓発活動を進めてまいりたいと考えております。

## 住民の心を映す新町川

橋のたもとに設けられた水上の円形ステ - ジ、川沿いの歩くと気持ちの良い『ボ - ドウォ - ク』、そのボ - ドウォ - ク沿いに建ち並ぶお洒落なブティックやレストラン、様々な水の造形が楽しめる水際公園、夜になるとライトアップされ美しいシルエットを浮かび上がらせる橋、両岸に並ぶヨットやクル - ザ - 、そして川を行き交う遊覧船。夏に



写真1 新町川でカヌー遊びを楽しむ市民たち



写真2 『サンタが川からやってくる』ラブリパーククリスマス事業

は水上ステ - ジで様々なコンサ - トが開かれ、クリスマスには船に乗ったサンタクロ - スが川沿いに待つ子供たちにプレゼントを配ってまわる。パリやサンディエゴの話ではありません。徳島市の中心部を流る新町川の風景のことなのです。

徳島といえば、阿波踊りや四国三郎の名で知られる吉野川を思い浮かべる方が多いと思いますが、むしろ、新町川と一体になったまちの風景こそ、現在の徳島の顔といえます。いや、でもそうした

風景なら京都にも倉敷にもあるよ、と思われるかもしれませんが。確かにそうですが、徳島で特徴的なのは汚れきっていた川を見直し、遊覧船を運航させ、川とまちを連続した風景として再生した点にあります。行政主導の整備だけではなかなかうまくいきません。にもかかわらず、なぜ、徳島で川を活かしたまちづくりが可能だったのでしょうか。そう、それは行政主導だけではなく、積極的な市民のボランティア活動が、川を変え、まちを変えて創りだした風景なのです。

#### 川の清掃から始まったまちづくり

この新町川界隈で靴店を経営する私は、阿波踊りに合せて筏レ－スを開催したことがあります。レ－ス終了後の人が去ったあとのゴミが散乱する川の惨状を見かねて川の掃除を始めたことがきっかけとなり、1990年に「市民の汚した川は市民の手できれいに再生しよう」と川を愛する有志10人ほどが集まる新町川の清掃ボランティア集団『新町川を守る会』を結成し、ボ－トに分乗して網を手に川の清掃を定期的に行うことになりました。

以来11年、一昨年8月にはNPO法人格も取得し、会員も250人に増え、最低でも月2回、イベントの前後の清掃を合すると年間40回程度、ボ－ト4～6隻に分乗して、網を手にゴミ拾いを続けています。その範囲はまちの中心部を流れる新町川と助任川によって、丁度、植物のひょうたんの形に結ばれた通称「ひょうたん島」といわれる周囲約6kmの河川と吉野川に至るまでの区間です。活動当初はベッドやバイク、冷蔵庫、扇風機など驚くような物が川に捨てられており、清掃船はすぐに満杯になりました。最初のうちは住民から奇異な目で見られることもあり、また、私達の会が何か特殊な団体として捉えられていましたが、次第に住民に認識され、やがてはまちづくりにまで波及するよ



写真3 上空から見たまちの中心市街地、新町川等に囲まれた『ひょうたん島』



写真4 毎月2回、定期的に行われる『ひょうたん島』の河川清掃活動



写真5 毎月1回、定期的に行われる、アドプトによる吉野川の河川清掃活動

うになりました。この背景には、『できる人が、できる時に、できる事を』と、お互いに活動を強制しないことを本会の運営方針にし、たとえ目の前で、ゴミを捨てる人があっても、その人を決して

## 水を活かしたまちづくり活動

特定非営利活動法人 新町川を守る会 理事長 中村 英雄

叱ったりせず、黙々とゴミを拾う姿勢を住民に示してきました。また、『継続は力なり』の言葉を感じ、大雨でも降らないかぎり、絶対に活動を休まない。このような姿勢があったからこそ住民に受け入れられたのだと思います。

### 市民の喜びがボランティアの活力源

平成4年に行政で策定した『ひょうたん島水と緑のネットワ - ク構想』に基づき購入された9人乗りの遊覧ボ - トによって、『ひょうたん島遊覧船試乗会』が開始されました。当初、隔週末（1日4回の運航）に市が行っていましたが、隔週末ではなかなか住民の間に浸透しませんでした。しかし、今後この事業が川を活かしたまちづくりに大変重要なものであることから、どうせ週末は水際公園付近で何らかの活動をしている私達であれば、もう少し運航回数を増やせるのではないかと考え、早速、市に「無償でいいから新町川を守る会で取組ませてくれませんか」と申し込みました。その結果、市からの委託事業として依頼されることとなりました。

そのうち、だんだん乗船希望者が増えてきたので、14人乗りの中型艇を会独自で2隻購入して、現在では毎日（1日5回の運航）運航するようになりました。阿波踊りの時には1日1000人位を乗せ、年間



写真6 毎日運航している『ひょうたん島』無料遊覧船活動

約2万人以上の人に楽しんでもらっています。

現在、会では遊覧船2隻のほか、イベントや河川清掃に使用する船を4隻所有しています。それらを購入し、維持する費用もかなりな額ですが、更に、定期運航の経費に1回1万円程度かかります。操縦者やガイドはボランティアで賄うことができますが、それでも相当な持ち出し分を覚悟しなければなりません。もちろん、イベントを開催する費用も別途必要です。

全体の2割程度は行政からの補助金等が出ています。しかし、無償で運営することは大変です。しかも、借金もあります。このため、イベントの時にはピ - ル券を売って資金源にしたりして、寄付集めも懸命にやっています。

ただ、無償だからこそ住民にも受け入れられたし、行政も協力してくれます。私利私欲のためにやっていると思われたら、誰もついてきません。それに、こうして毎日やっている川がきれいになったり、まちが活気づいてくるのがはっきりとわかります。それが、私達の会への唯一の配当であり、また私達の無上の喜びでもあります。

### 1人の百歩より百人の1歩を

ボランティア活動は地道な活動の連続であり、徐々にではありますが、その活動の輪を広げていく必要があります。しかし、何ら社会的に保証のない立場や、資金面、情報発信力などともなう苦勞の連続です。でも最後には人と人が心と心で結びつくボランティア活動の心地良さを参加者全員が共有できることは、お金に代え難い魅力があります。

そのため、本会では、会員の日常の活動とともに平成8年より広く一般市民や他の活動団体との連帯を目的にした取組みを行っています。

事業内容は毎年夏に本会が中心的に運営する吉野川フェスティバルがその一つで、吉野川の沿川の市



写真7 大規模河川環境啓発事業の『吉野川フェスティバル』

民1万人による河川一斉清掃があります。この活動には、吉野川の源流近くの高知嶺北5ヶ町村、中流部の池田町、三好町等の団体、下流の藍住町、石井町等の団体に加え、海の漁師さんたちも参加しています。参加者にとっては1年に1回の活動であっても、活動後のさわやかな達成感により、彼らとの連帯感が醸成していけるものと考えています。

また、平成4年から毎年クリスマス期間中の3日間は「川からサンタがやってくる」と題して、会員がサンタの衣装を身にまとい、子供たちに200人分のケキを無料で配布したり、いろいろなプレゼント約3万個を袋に詰めて、電飾したボートに乗り込み、ひょうたん島を周遊しています。今では、川縁には大勢の人だかりができ、大人気で、用意したプレゼントは瞬く間に底をつく有様です。

さらに、平成12年度からは、アウトリチプログラムとして、海の漁師さんたちとも連携を図り、大阪湾及び瀬戸内の各河川から流出したゴミで、海岸が埋め尽くされている紀伊水道の離島の伊島の海岸清掃に取り組んでいます。そのほか、高知NPOと連携し、吉野川の早明浦ダムの上流の源流付近の高知嶺北5箇町村に新町川を守る会の育てた、『千年の森』づくりにも取り組んでいきたいと考えています。

## おわりに

昭和40年代ぐらいは、新町川には魚はほとんどいませんでした。それが今では、ヒラメ、カレイ、黒鯛、ハゼなど30種類ぐらいの魚が生息しています。川がきれいになったことで、住民も川を意識して川に向かって家を建てるようになってきました。例えば、新町川沿いを売りにしたマンション、ブティックが次々に建てられています。行政も新町川の護岸など、水際整備に力を入れてくれています。

このように、徳島のまちは市民の活動に行政が参加してくれたまちなのかもしれません。『市民参加のまちづくり』という言葉が最近よく聞きますが、しかし、それはもう古いのかもしれません。市民が先導し、主体になり、その後に『行政参加のまちづくり』がなされるのが、理想のまちづくりの在り方でないでしょうか。

住み心地のいいまちは自分たちの手でつくっていく。『自分たちのまちだから、自分たちが住んで楽しいまちにしていく。もちろん自分たちの手で』このような考え方のもと、住民・行政・企業を巻き込んだ大きな運動のなか、三者が十分な連携を図り、それぞれの役割分担のもと、行政に全て責任を押しつけるのではなく、住民が最後まで責任をもった本当の意味での住民が主役の川を活かしたまちづくりの更なる推進に取り組んでまいりたいと考えています。

最後にこのたび第3回「日本水大賞」において、私達新町川を守る会の活動が国土交通大臣賞をいただきましたことを、この誌面をお借りして、関係者の方々に心からお礼を申し上げます。

なお、本会の主な活動を以下に、列記しておきます。

## 新町川を守る会の主な活動内容

### [リバクリアップ活動]

新町川等の河川清掃：毎月2回、川の浮遊ゴミ等をボートに分乗した会員が網ですくい取り清掃する。

## 水を活かしたまちづくり活動

特定非営利活動法人 新町川を守る会 理事長 中村 英雄

吉野川の河川清掃：毎月1回、アドプトプログラムにより吉野川の定められた区間を清掃する。

吉野川クリンアップ大作戦：吉野川フェスティバルの一環として1万人の一斉河川清掃の実施。

アウトリーチプログラム：河川だけでなく、様々な団体と共同して清掃活動を行う。昨年は離島の伊島の海岸清掃を実施。

## [リバ-クル-ジグ活動]

無料周遊船の運航：毎日5便、本会所有の遊覧船2隻で新町川等ひょうたん島1周6kmを無料運航。

とれとれ市クル-ズ：毎月1回開催される「とれとれ魚市」へ本会所有の遊覧船で無料送迎。

吉野川クル-ズ：夏期に不定期で「四国三郎」吉野川の船旅を楽しめます。

## [ラブリバ-活動]

ひょうたん島一周ボ-トレ-ス：毎年7月下旬に新町川・助任川の1周6kmの手こぎボートレースの開催。

ラブリバ-コンサ-ト：毎年数回、新町川水際公園等の水辺でコンサ-ト等の演奏会を開催。

観月演奏会雅楽の夕べ：毎年9月の下旬に新町川等で仲秋の名月をバックに古典雅楽の演奏会を開催。

寒中水泳大会：毎年1月中旬に新町川で寒中水泳・飛び込み大会を開催。

ラブリバ-クリスマス：毎年12月末の3日間、ボートに乗ったサンタが川沿いの人々にプレゼントを配布。

吉野川フェスティバル：毎年夏の3日間、観客5万人を集めて、スイムマラソン、コンサ-ト、川巡り等吉野川下流域で最大の多彩な河川環境啓発イベントの開催。

## [リバ-サイド修景活動]

田宮川フラワ-堤防：田宮川の堤防にアジサイ、ツツジ、チュ-リップ等を植え、フラワ-堤防を整備する。

田宮川フラワ-堤防のライトアップ：毎年5～6月のアジサイの開花時期に合せ、堤防のライトアップを行う。

## [その他の活動]

グランドワ-クトラストの研究：年数回、徳島青年会議所等とグランドワ-クの研究活動の実施。

光プロムナ-ド事業の実施：県の委託を受けて、新町川沿いのライトアップ等光景観向上のための事業を実施。

## 参考

1)「河川」(社)日本河川協会 1998年4月号

2)「ふるさとづくり'99」(財)あしたの日本を創る協会 1999年

3)「FRONT」(財)リバーフロント整備センター 2000年4月号



写真8 アウトリーチプログラムによる離島「伊島」の海岸清掃活動



写真9 田宮川のフラワー堤防の除草等整備活動